



創造・感謝・勤労

飛幡中

2019年度

北九州市立飛幡中学校 学校通信

令和元年11月29日 No. 17

発行責任者 校長 池 浩幸

学校所在地 戸畑区小芝一丁目8番20号

TEL 093-882-3652 FAX 882-3618

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

（1）全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

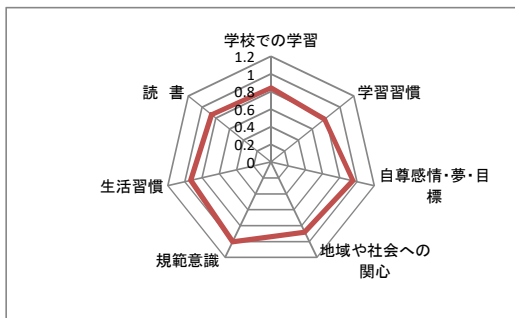
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

（2）本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○解答する際に、どのような条件が提示されているのかを正確に捉えられない生徒が多い。普段から意見を述べる際には、因果関係・根拠の提示や補足を発問で明確化し学習支援を行う必要がある。また、文章と選択肢を比較する問題では、文章の内容を深く理解せず狭域で捉えている誤答が多かった。話し合いを場面とした問題からは、人の意見を聞き、その人の意図を正確に捉えた上で自分の意見を述べる力に課題がある。封筒の宛名書きの問題では、手紙を書く習慣がない生徒が多いため適切な書き方の定着ができていなかった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・1三 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことを考えたことを書く ・2一 話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	
	努力が必要な問題	・1四 「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	
数学	全体的な傾向や特徴など	○全体的に全国平均正答率を下回っているが、その中でも知識・理解を問う問題に関しては全国平均に近い正答率を出している。問題文を読み解く力に課題があるため、単純な計算問題でも、問題文の解釈を誤り、誤答している生徒が多い。記述問題に無回答が多く、理由や考え方を説明する問題に対して、「どう解答したら良いのか」、「何を書けば良いのか」などが分からない生徒が多い。また、答えが分かっているが、その内容を順序良く的確に文章化する力にも課題がある。すべての単元において数式や図形の本質を理解し考察する力に課題が見られるので、授業の中でもっと考えを深める活動を増やしていく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・7（1） 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 ・8（1） 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。	
	努力が必要な問題	・5 簡単な場合について、確率を求めることができる。 ・7（3） 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。	
英語	全体的な傾向や特徴など	○リスニングに関しては、まとまりのある内容を聞いて概要を理解したり、情報を聞き取ることが特に課題である。書く問題では、全体的に無回答率が全国の割合よりも5%以上高く、初めからあきらめている生徒が多い傾向にある。文法の知識を定着させる、まとまった英文を書く方法を指導し、書く機会を増やす、などが課題である。読むことに関しては、グラフや絵を説明する英文を選択する問題の正答率が低い。まとまりや流れのある英文を読み取らせる工夫が必要である。参考値であるが話すことにおいては、全国よりも正答率が高く、無回答率が低い問題も多い。発話に対しては積極的である傾向を生かした指導を考えたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	1（1） ある状況を描写する英文を読んで、内容を最も適切に表している絵を選択する。 話すこと2 やり取りを聞き、その内容を踏まえて即興で質問をする。	
	努力が必要な問題	4 留学生の音声メッセージを聞き、部活動についてのアドバイスを書く。 9（2）1 英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を書く。	

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○「読書は好きである」の肯定的回答は63.3%であるが、読書活動を「全くしない」がほぼ半数であり「新聞をほとんどまたは全く読まない」は、85%を超えている。学校図書館職員とも協力し、図書室、朝自習や読書週間などを活用し子どもが更に読書好きになるような取り組みを考えて実行していく。

○進路学習を通じて、自己の将来の夢や目標を立てさせ、自己の進路（高校進学）に活かす。

○家庭学習の取り組みは、「2時間から3時間」「3時間以上」では、全国平均を上回っている。「1時間以上」まで含めると全国平均に比べ不足しているが、昨年度よりは向上している。今年度導入した『飛幡ノート』も意識づけの一つと考えられるので継続していく。家庭学習をもっと計画的に取り組めるように、学力向上委員会や教科部会で、宿題の在り方や、家庭学習の充実に向けた取組などをさらに実践していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 国語では、各学年の行事に合わせて手紙等を書く活動を取り入れていく。
- 数学では、発表や記述で、文章や言葉で説明する機会を増やす。
- 英語では、ALTを活用し、まとまりのある英文を聞いたり書いたりする機会を増やす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自主的に学習する習慣を確立するために、『飛幡ノート』の取り組みを充実させる。
- 基礎基本の学力の定着を図るため、朝自習テストや学力定着サポートシステムの問題などを活用し適切な課題を検討し提示する。
- 「家の人と学校での出来事について話す」は、全国平均を下回っている。学校通信、学年通信などをさらに充実させ、学校生活の様子を具体的に紹介することで、話題を共有できるようにする。さらに保護者への学力向上に向けた啓発活動を行う。